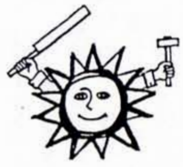
解体前の家屋で大奮闘

ハンディをささえる
モノづくり通信

福祉機器住宅研究会
発行責任者
ボランテイアｃ
765－4041
制作協力
朝日新聞大阪本社
読者室
電話06(201)8033



壁の下地も理解して
体験スクール大きな成果

スロープも確かめました

11月12・13両日、『自助具製作のボランティアスクール』が大阪市社会福祉協議会ボランティアセンターの主催で行われ、当研究会が協力しました。

会場になったのは、元は診療所と住宅であった木造2階建てのまだまだ十分使用できそうな立派なおうちでしたが、マンションに建て替えるために近々解体される予定にあり、持ち主のMさんのご好意で、『どうぞ思う存分お役立てください。』ということになったものです。

初日は、脇坂さんのボランティアガイダンス、杉浦さんの研究会紹介に引き続き上田さんの大工道具の説明を聞いて、早速会場の家屋相手に大奮闘しました。

壁を剥いでみると、壁土の芯には竹小舞が組まれている様子や、ボード壁に隠された胴縁、漆喰壁の下地などが現れて、まさしく『百聞は一見にしかず』。

手すりを取りつけるにも、壁の下地をしっかり理解しないといけないと、納得。

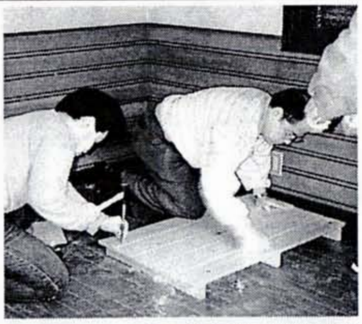
この日はちょうど4チャンネルテレビの取材があって、一同ちょっぴり緊張ぎみ?

二日目はすっかりうちとけて、チームに分かれて手すりやスノコ作り。中にはボランティア活動のご常連や棟梁までもおられて、いつのまにか研究会のメンバーもスクール参加者も区別がなくなってしまい、『だ～れが生徒か先生か～』の世界。

奈良から母娘で参加のYさん、お嬢ちゃんは障害があって車イスを使いながらも、皆さんの活動を嬉しそうに眺めたり、スロープやトイレの手すりなど次々と出来上がる成果を自分で確かめていました。

夕刻になって、会場となった家屋に感謝をこめて後片付け、心地よい疲労感と満足。

それぞれの思いを残して散会……その夜の晩酌のビールはいかがでしたか?



スノコも立派に

みんなで協力して

むつかしかった釘打ち
手すりは満足な出来栄え

11月5日の学習会は、始めての体験学習。自分自身の手で実際に手すりの取付けに挑戦。

前半の1時間で道具とその使い方についての講習を受ける。

用途に応じて道具の使い分け、特性、種類と今まで何気なく見たり触ったりしていた道具の奥深さを知る。

いよいよ1階の駐車場で体験学習の開始。

1のこぎりを使って角材の印付け

差金で角材に印を付けのこぎりで切る。肩を使い四面を平均して切り込むことにより切り口がきれいになる…はずがうまくいかない。

2金ヅチでくぎ打ち作業

金ヅチの最端部分（イシズ）を持ち力を抜き手首を使って打っていく。うん、うまくいってるぞとその時『あっくぎが曲がってしまう』あーこれも難しい。まっすぐ入ってくれない。くぎにじたばたしてしまう。

3ドリルで穴を開ける作業とビスをもむ

相手の素材によって電動と震動の2種類の使い分けが必要になる。ここではコンクリートブロックと磁器タイルの穴開けに挑戦。コンクリートブロックのやらかさにびっくり。

道具の使い方を学習した後、いよいよ手すりの取付けを開始。取りつける相手が、ベニヤ板とボードの2タイプ用意される。グループに分かれ作業をすすめていく。先ず取付け位置、手すりの長さを決定・木製丸棒32ミリを寸法にあわせ切断、既製品のブラケットを丸棒に通し、ビス穴に電動ドリルを使い、ゆっくりと取付けていく。まずはその作業を3カ所のブラケット同時に進める。そして再び1カ所ずつ完了させ、最後はドライバーを使い、ビスのしめこみを確実に仕上げていく。同じ要領で他の部分も取付け完了。うん!なかなかうまくいったと…ちょっと満足。

ただ実際に住宅での取付けとなると、状況や条件が異なるのが現実だ。その場の判断や経験を積む事が必要になるだろう。これを第一歩として、小さな事から挑戦してみたいと思う一日だった。

記　山本みどり

うん、うまくいった

ヨーロッパの福祉

大阪市民間社会福祉施設職員等の海外研修の一員として参加した。

イギリス、オランダ、ドイツ、フランスの四カ国を十三日間で、病院ボランティア、保育所、老人ホーム、母子寮、障害者施設など七カ所の施設訪問を始め、現地事情を視察した。

国情や信条や歴史などの違いは、福祉の社会にも様々に表れて、優劣について早計に語ることはできないが、それぞれの国の特色があり参考になった。

国情の違いはあるものの、特に印象的だった事を次にあげてみたいと思う。

・ボランティア（イギリス）・・活動希望者のポリシィを大切にし、その活動の中身は、プロの代替でなく補助的活動。

・保育所（イギリス）・・スケールが意外に小さく、その運営もそれぞれの自主性に任され、保育時間も四時頃までと短い。（親の就労時間も短く、時間外の保育は、ベビーシッターで対応している由）

・老人ホーム（オランダ）・・礼拝堂など、心のよりどころが確保されている。

その他、ドイツの知的障害者のグループホームでは、全員の就労を保障すべくサポートが行き届き、フランスの母子寮では、幼児の養育の為に未婚の母共々、法的に手厚く保護されていた。

（記・宇賀神紀子）

代表が変わりました

当会代表でありました穴沢一良氏の一身上の都合により、代表を辞され、後任として、次期改選までの間を杉浦史郎と中北清の両氏が暫定的に就いておりますので、よろしくお願いいたします。

ことば・コトバ
在宅ケア

社会福祉の対象者が在宅のまま生活が可能となるように行われる日常的援助サービスをいう。

1972年の厚生省社会局長通知『在宅老人福祉対策事業の実施及び推進について』で最初に用いられ、以後広く社会福祉の領域全般で使用されるようになった。

しかし、施設ケアと対置される概念として、また地域ケアと同義の概念として用いられることもあり、用語法は統一されていない。

従って、在宅ケアの内容は、狭義には、訪問看護、ホームヘルプサービス、給食サービス、入浴サービスなど必要なサービスが自宅に届けられて行われるサービスをいうが、広義には、これにデイ・ケアやショートステイなど施設に通って必要なサービスを受ける通所サービスを含む場合がある。

わが国では、ノーマリゼーションやインテグレーション（援助の統合化）などの福祉理念が強調されるようになり、ようやく在宅ケアの必要性が明らかとなったところであり、その整備・拡充が求められている。

新社会学辞典より

事例報告

Aニード
B日常生活状況及び家屋状況
C解決方法
D改善後の状況と考察

る。

C　奥さんの希望もあり、廊下は和風の広巾縁甲板貼りにて3センチの段差を解決。

D　廊下は明るく雰囲気も良くなり、スムースに食堂への出入りが容易になったとのこと。

車椅子の出入もスムーズになった

Yさん　84才　男性

A　ベッド横の椅子から、屋外まで直接車椅子で移動が出来るように、前回は玄関の内側と外側にスロープを設置。今回は廊下と食堂、食堂と和室の段差の解消という新たなニードでした。

B　糖尿病と脳硬塞のため歩行は皆目不可。ベッド横の椅子で一日を過ごしている。外出はデイサービスセンターに週一回通っています。

C　前回作成のスロープ改修の折、1センチ程度の段差でも傾斜とか他の条件にては接続に問題があり、限り無く接点を0にする工夫が大切であることを学ぶ。また、傾斜の角度によっては滑り止めの工夫も必要であり、今後の課題とし、研究テーマとして考えたいと思います。

車椅子もスイスイ

安心してトイレに
ひとりでらくらく行けます

Mさん　83才　女性

A　便所・昼間一人になるので、一人でトイレに行けるようにしたい。浴室・入浴する時の介護が大変なので、なるべく介護者に負担がかからずに入浴ができるようにしたい。

B　娘さんと二人暮らし。娘さんが仕事に出ているため昼間一人になり、介護者もいないので一人でトイレに行かなければならない。入浴は介護が必要。

住居は賃貸の木造平屋建てで、家主さんからは釘など打たないように言われている。

C　便所も浴室も釘をうてないため、壁に直接手すりを取付けられないので、イレクターパイプで手すりを組立て、床や壁からは独立させて設置した。更に浴室は、出入口と床との段差をなくし、露出したイレクターパイプを隠すために檜のスノコを設置した。

D　便所・手すりを設置したので、立ち座りの動作が安定してできるようになった。浴室・手すりを設置したので、スペースはその分狭くなったが、浴槽の出入りは易くなった。スノコを設置したので、入口の高さと床との段差はなくなったが、浴室から廊下側に出る時に段差があるので、降りる動作が不安定になって危ないので、家主さんの許可を得て出口の横の壁に木製の縦手すりを取りつけた。

浴室に檜のスノコを置いて段差がなくなったのは良かったのですが、掃除するのが面倒なのと、スノコの上に直接座るとお尻が痛いという問題もでてきています。

イレクターパイプで手すりを

より動きやすい
手すりの高さと位置

Nさん　48才　女性

A　居室からトイレ、浴室等の移動のための手すりを設置してほしい。

B　パーキンソン症候群、左半身麻痺傾向により歩行困難、週一回リハビリ訓練のため通院。

ご主人とお子さん二人の四人家族。

C　トイレ・両壁面に長さ一三〇〇ミリのステンレス製手すりを高さ一〇八〇ミリの位置に二本設置。浴室・入り口左手壁面に、長さ九一〇ミリのステンレス製手すりを高さ一〇八〇ミリの位置に、浴槽からの立ち上がりのために、長さ九一〇ミリのステンレス製の手すりを高さ七三〇ミリの位置に設置。廊下・階段から台所へ向かうために、長さ一八二〇ミリの木製手すりを高さ一〇八〇ミリの位置に、トイレと浴室との間に、長さ五五〇ミリの木製手すりを高さ一〇八〇ミリの位置に、台所入口には、長さ七二五ミリの木製手すりを高さ一〇〇〇ミリの位置に設置。

D　具合の悪いところもなく、本人も喜んでいるとのこと。材料などのコストダウンや製作時間の短縮により、金額面でニード側の負担を軽減出来るよう考える必要があると思いました。

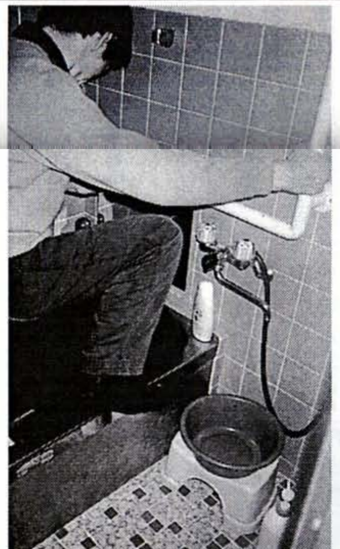
使いやすくなりました

好きなバスタイムを
ゆっくり一人で楽しむ

Tさん　41才　男性

A　浴室・一人で安全に入浴ができるようにしたい。便所・手すりを付けてほしい。玄関・土間に降りながら靴を履く動作が、安全でスムーズにできるようにしたい。

B　森永ミルク中毒によるウィルソン氏病で四肢麻痺、言語障害有り。母親と二人暮らし。家の中での移動は、スムーズにできるが、バランスを崩すと倒れてしまう。入浴やひとりでは困難な動作は、母親が手をかしている。ボランティアの人と車椅子で陶芸教室に通ったり、住み慣れた地域で積極的に活動しています。住居は木造二階建。



早速お風呂にはいってみる

C　浴室・浴槽の出入りが安全にできるように、L型の手すりを取付け、浴槽の中でバスシートに腰掛けて髪の毛や体を洗うようにした。浴槽に座ったときに、使いやすい位置にシャワーハンガーを設置し、髭を剃る時の為に鏡を取りつけた。便所・便器から立ち上がって移動し易いように縦手すりをとりつけた。玄関・椅子に腰掛けて靴を履いてから、縦手すりを持って約20センチの段差を降りるようにした。

D　風呂好きのTさんは、一人で過ごすバスタイムを十分楽しみ、手を貸していたお母さんも自分の時間を楽しんでいます。

ウィルソン氏病は進行性なので、玄関で使う椅子は症状に合わせて2センチ単位で高さを調整できるようにしています。今回の工事によって、Tさんがお風呂に入るのをとても楽しんでくれてる事を何よりうれしく思います。玄関の椅子も高さが適切なのか確認する為にさっそく座って靴を履いてもらったのですが、靴を履き終わった後、手でOKサインを出して喜んでくれた笑顔がとても印象的でした。

天井取りつけ

定例会のお知らせ

〔三月〕
日時・3月4日(土)
阪神大震災の影響を受けた社会福祉施設を訪問し、修繕、片付けなどのボランティア活動を行います。場所は交渉中です。

〔四月〕
日時・4月14日(金)
場所・積水ハウス(株)総合住宅研究所・納得工房　京都府相楽郡木津町兜台6ノ6ノ1
電話07747・3・1105・1106
集合場所は申込者に通知します

三月・四月とも参加希望者は二月十五日までに、事務局・宇賀神まで申込んでください。

会員プロフィール

秋本伊都子　(株)予防健康出版社　福祉のこと、ボランティアのことを色々勉強したい。編集関係のお手伝いなら出来るかなと思います。

河合秀晃・京都市交通局　宅建主任、危険物取扱者資格あり、老親のために住宅全般の実務を心得ておきたい。製作ボランティアとして活動。

芝桃子・シバデザインオフィス、建築士二級、プロダクトデザイナー、高齢化社会に向けてのデザインのためのデータベースを作っていきたい。身のまわりの道具、インテリアなどのアイデア、設計。

工藤紀子・花園大学社会福祉学部在学、看護婦資格あり、環境を整えるためにどうすればよいか、その代表的な住まいの改善について研究したい。

活動記録

11月29日・12月15日・12月24日・1月13日・1月19日・1月26日・身障者グループホーム設計打合せ

11月30日・住之江区民ホール（住之江区福祉機器展）で住宅改善コーナーを当会会員が担当。

12月3日・12月定例会及び忘年会。

12月13日・12月21日・1月19日・初期診断チーム検討会。

1月14日・1月定例会。